

会員通信・News & Comments

魚類学雑誌
44(1): 62-63

Thysanophrys の和名

Japanese Name of a Platycephalid Genus, *Thysanophrys*

コチ科の *Thysanophrys* は Ogilby (1898) により *Platycephalus cirronasus* Richardson, 1848 に基づき設立された属である。本属は虹彩皮膜が分枝する、眼下骨の隆起線は4本以上の棘を持つ、鰓耙数が7本以下であるなどの形質で特徴づけられ、世界から7種が認められてきた (Knapp, 1984, 1986; Imamura et al., 1995)。一方、日本産本属魚類としては *T. arenicola* が益田ほか (1975) によって初めて報告され、スナゴチの和名が与えられた (この和名は本種の英名 sand flathead に由来すると考えられる)。益田ほか (1975) は *Thysanophrys* に対して和名を提唱していなかったが、後に落合 (1984) が本属をスナゴチ属とした。益田ほか (1975) の後、日本産本属魚類として、クロシマゴチ *T. chiltonae* Schultz, 1966、セレベスゴチ *T. celebica* (Bleeker, 1854)、フサクチゴチ *T. otaitensis* (Parkinson, 1829) が知られるようになった (Ida and Yunokawa, 1980; 瀬能・中坊, 1992; Imamura et al., 1995)。

ごく最近、Imamura (1996) は形態形質を用い、コチ科魚類38種の系統縁縁関係を分岐分類学的手法によって推定した。さらに、Imamura (1996) は得られた縁縁関係を基に、従来の *Thysanophrys* を再定義された *Thysanophrys* と新たに設立した *Eurycephalus* に分割し、前者に *T. cirronasa*、クロシマゴチ、セレベスゴチ、*T. armata* (Fowler, 1938)、*T. longirostris* (Shao and Chen, 1987) の5種を、後者にスナゴチ、フサクチゴチ、*E. carbunculus* (Valenciennes, 1833) の3種を含めた。Imamura (1996) は両属の和名について言及しなかったが、スナゴチの和名を与えられた *Eurycephalus arenicola* が *Thysanophrys* に所属しないため、従来のまま *Thysanophrys* にスナゴチ属の和名を用い続けるのは極めて奇異であり現状にそぐわない。よって今後の和名の混乱を避けるため、*Eurycephalus* をスナゴチ属とし、再定義された *Thysanophrys* にクロシマゴチ属の新和名を用いることを提唱する。なお、両属は以下の外部形態で区別することができる。すなわち、クロシマゴチ属では眼下骨と前鰓蓋骨からのびる感覚管がよく発達し、頬の全域を完全に覆うが、スナゴチ属ではこの感覚管があまり発達せず頬の一部のみを覆う (Imamura, 1996) (Fig. 1)。

引用文献

Ida, H. and K. Yunokawa. 1980. Karyotypic variation found among

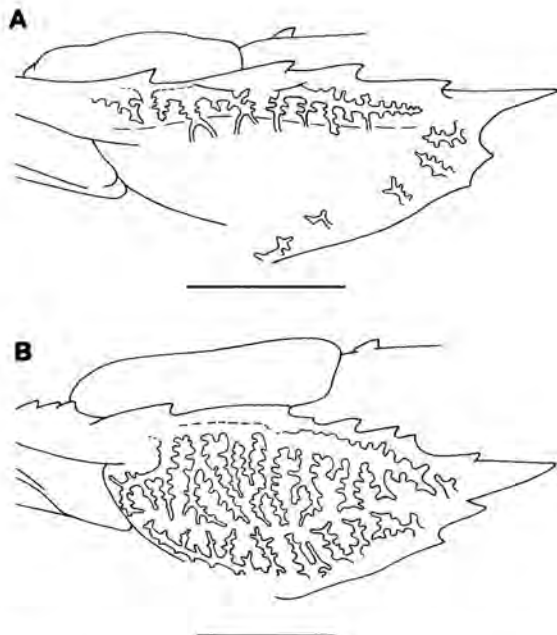


Fig. 1. Ventrolateral view of cheek region on left side. A, *Eurycephalus otaitensis*; B, *Thysanophrys celebica*. Scales indicate 5 mm.

five species of the family Platycephalidae. Japan. J. Ichthyol., 27: 122-128.

Imamura, H. 1996. Phylogeny of the family Platycephalidae and related taxa (Pisces: Scorpaeniformes). Spec. Div., 1: 123-233.

Imamura, H., H. Ida and J. T. Moyer. 1995. Redescription of a flathead, *Thysanophrys otaitensis* (Scorpaeniformes: Platycephalidae). Japan J. Ichthyol., 42: 277-283.

Knapp, L. W. 1984. Platycephalidae. 22 pp. in W. Fischer and G. Bianchi, eds. FAO species identification sheets for fisheries purposes. Western Indian Ocean (Fishing area 51). Vol. 3. FAO, Rome.

Knapp, L. W. 1986. Family No. 155: Platycephalidae. Pages 482-486 in M. M. Smith and P. C. Heemstra, eds. Smith's sea fishes. Macmillan, South Africa.

益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫, 1975. 魚類図鑑, 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 383 pp.

落合 明, 1984. コチ科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝弥・吉野哲夫 (編), pp. 307-308. 日本産魚類大図鑑. 解説, 東海大学出版会, 東京.

Ogilby, J. O. 1898. New genera and species of fishes. Proc. Linn. Soc. N. S. W., 23: 32-41.

瀬能 宏・中坊徹次, 1992. 伊豆半島から採集された日本初記録のセレベスゴチ. I.O.P. Div. News, 3(7): 4-5.

(今村 央 Hisashi Imamura: 〒031 青森県八戸市鮫町

下盲久保 25-259 水産庁東北区水産研究所八戸支所
e-mail: hima@myg.affrc.go.jp)

財団法人科学博物館後援会 電話・FAX: 03-5814-6757.

魚類学雑誌
44(1): 63

「小笠原の魚類」出版のお知らせ

国立科学博物館のMonographs No. 11に下記の論文が出版されました。送料・税込みで2,310円です。購入希望者は、料金を郵便振替でお送り下さい。

送金先：00150-8-22146 財団法人国立科学博物館後援会。

問い合わせ先：〒110 東京都台東区上野公園7-20

Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle and J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. National Science Museum Monographs, No. 11, 74 pp., 19 pls.

論文には97科801種の小笠原諸島の沿岸性魚類が収録されています。150種が小笠原諸島から新たに記録された種類です。収録された多くの種類が、水中写真および標本写真で示され、カラーの図は合計117枚に達します。出版部数に限りがありますので、購入希望者は早めにお申し込み下さい。

(松浦啓一 Keiichi Matsuura: 〒169 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館動物研究部 e-mail: matsuura@kahaku.go.jp)

会記・Proceedings

魚類学雑誌
44(1): 63-68

オークション開催のお知らせ

1997年度年会の懇親会において書籍類のオークションが行われます。売上金は今後の年会に参加する学生へ旅費の一部として援助される予定です。つきましては不要になった書籍類のご寄付をここで募るとともに、ひとりでも多くの方の懇親会へのご参加をお願いいたします。

オークションに関するお問い合わせは庶務幹事(瀬能: TEL 0465-21-1515, FAX 0465-23-8846; 篠原: TEL 03-3364-7125, FAX 03-3364-7104)まで、書籍のご寄付につきましては今回会場となる横須賀市自然博物館の林 公義氏(TEL 0468-24-3688, FAX 0468-24-3658)までご連絡下さい。

学会ホームページの開設のお知らせ

日本魚類学会のホームページを開設しました。学会誌の紹介、年会に関する情報などが掲載されています。アドレスは以下のとおりです。

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/isj/index.html>

ホームページに関するご意見、ご要望、新しいアイデア、活用方法等がございましたら、下記までご連絡下さい。

千葉県立中央博物館 川瀬裕司
kawahagi@cc.rim.or.jp

1996年度第4回役員会

1996年9月17日(火)、於 国立科学博物館分館研究館2階会議室。出席者: 尼岡, 沖山, 林, 大竹, 瀬能, 篠原, 松浦, 宮, 塚本, 上野。

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集: 11月出版予定のIchthyol. Res. 43(4)と魚雑43(2)の編集作業は順調に進む。今年に入ってから現在までの投稿原稿はすでに70篇(英文60篇, 和文10篇)に達した。会計: 1997年度改訂予算案について。庶務: 第17期日本学術会議会員の選出にかかる学術研究団体の登録が9月10日付けで完了した。
3. 学会ホームページについて: 庶務から内容の具体案が出され、検討後年会プログラムなどの情報を加えることが決まった。
4. 学会オリジナルテレホンカードについて: 価格、販売開始時期および保管場所について検討した。
5. 評議員会、総会の議案の最終決定について: 議案について検討・修正を行い、最終的な議案内容を決定した。
6. 年会について: 年会開催にかかわる学会からの補助金および年会参加費について検討した。役員と開催地運営委員の役割分担について決めた。
7. その他: 1) 次回の会長選挙を来年7月に行うことを決定した。2) 文部省科学研究費の新分科細目「自然史科学」の説明と対応の仕方について(松浦氏から)。3) バックナンバーの価格について決め、年会で販売処理することを決定した。